

狭山市教育委員会
教育長 向野 康雄 様

狭山市立西中学校
校長・浅沼 俊英

令和3年度 狭山市立西中学校 学校関係者評価表

※ 学校が行った自己評価の結果及びそれを踏まえた今後の改善方策について評価する。

※ 【評価の目安】

- A：よくできている。(90%以上)
- B：概ねできている。(85%以上)
- C：あまりできていない。(70%以上)
- D：できていない。(70%未満)

領域	番号	評価項目	自己評価		学校関係者評価委員から 評価(文章表記)
			評価	説明	
学校運営全般	1	学校の重点目標が明確である。	A	・教職員自己評価及び生徒自己評価の結果は高い数値を示しており、一定の成果をあげたものとする。 ・清掃の取組は、生徒自己評価の結果も高くなっている。 ・安全点検には、方法等に課題があるとの教職員の意見が多い。	・校長の学校経営方針が教職員に周知徹底されている。 ・感染症予防対策を講じながら状況に応じた教育活動に努めている。 ・生徒の自己評価が高い。 ・コロナ禍であり、仕方ないが、コロナ禍前の活動を知っていると生徒の経験不足が心配される。 ・評価することにより、努力がわかり、今後の課題も見える。
	2	児童は、学校生活が楽しいと感じている。	B		
	3	教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる。	A		
	4	清掃が行き届き、学校がきれいである。	A		
	5	学校の施設・設備は安全に管理されている。	B		
学習	6	教師は、児童が興味関心のもてる授業、わかりやすい授業を実施している。	B	・生徒の学力向上には課題があり、その改善には教員の授業改善が不可欠である。 ・家庭学習の定着は、大きな課題であるが、一方で、学校での授業の充実をさらに推進する必要性を感じる。	・全体的に落ち着きをもって取り組んでいる。 ・生徒の自己評価結果の多くが90%以上であることから、しっかりと学習に取り組んでいると考える。 ・教職員、生徒の努力がわかる。タブレット活用の取組もわかった。 ・生徒、教職員、保護者の評価から家庭教育や家庭での習慣に課題を感じる。学校任せにしないことを保護者も理解してほしい。 ・家庭学習には大きな課題がある。
	7	児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。	A		
	8	児童は、基礎的基本的な学力を身につけている。	B		
	9	児童は、家庭学習の習慣を身につけている。	C		
	10	児童は、英語活動をととして積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。	B		
規律ある態度	11	児童は、進んであいさつをしている。	A	・生徒自己評価及び教職員自己評価の結果は高い数値を示しており、一定の成果をあげたものとする。しかしながら、個々の生徒に目を向ければ、個人差が大きいという実態もある。	・一生懸命に取り組む教職員の姿勢を生徒はくみ取っている。これからも、生徒に寄り添った指導・支援をお願いする。 ・学校でできていることを学校外でもできるとよい。 ・しっかりと取り組んでいる様子がわかる。生徒の自己評価でも数値が高い。 ・生徒自己評価結果が高い数値であることから、規律ある態度が育成されていると考える。
	12	児童は、場に応じた言葉遣いができている。	A		
	13	児童は、時間を守って生活している。	A		
	14	児童は、きまりを守って生活している。	A		
	15	教師は、自ら手本となり、規範意識を高めている。	A		
健康・体力	16	学校は、児童の体力を高めている。	B	・コロナ禍で学校行事の縮小や中止が多く、体力面での課題は大きい。しかし、感染症予防をはじめ自身の健康への関心は大きく高まっていると考える。	・教職員の自己評価結果から感染予防の徹底が図られたことがわかり、素晴らしい教職員だと感じる。 ・コロナ禍であり、活動量は大きく減少したため、健康体力の課題は大きくなっていると感じる。
	17	児童は、体育や外遊びに意欲的に取り組んでいる。	B		
	18	児童は、健康を意識した生活をしている。	A		
地域との連携	19	学校は、教育活動に関する様々な情報を積極的に提供している。	B	・コロナ禍で方法の制限や機会の減少があり、停滞している状況がある。	・学校運営協議会で課題等について一緒に協力し合う体制を構築している。 ・情報は提供された側の活用も含めて考える必要があるが、そこまで考えられているか疑問である。
	20	学校は、保護者や地域と連携・協力し、教育活動を行っている。	B		